

## 児童養護施設 高鷲学園

### <重点課題>

1. 地域小規模児童養護施設は2ヶ所目の高鷲ホーム「はびきが丘」(女子6人)の4月1日開設にむけ、改築等の準備をすすめました。
2. 研修委員会を設置し、発達研修およびCRC研修を定期研修として実施しました。
3. マニュアル(運営・支援・危機管理)等は整理し冊子化しました。
4. 総主任の複数配置により、諸学校及び諸機関の役割を分担し意思疎通をはかりながらすすめました。しかし実務処理等の分担が不十分で課題を残しました。
5. 児童の休日等の余暇支援は空手(講師)、ピアノ(講師)、料理教室(四天王寺大学)など取り入れ充実しました。
6. 2度目の第三者評価を受審し、施設運営及び人材育成、支援内容向上につなげました。

### <自主性を高める親切的な利用者支援計画>

1. 「権利ノート」「ゆあぶつく」(高鷲学園版権利ノート)を活用し、こどもたちに権利の話し合いをすすめました。セカンドステップは低年齢児を中心に行いました。
2. 年2回(上半期・下半期)、児童自立支援計画を作成、点検・評価しながら個別支援を行いました。
3. 入所児童のアセスメントを行い、児童相談所、学校、病院等との連携強化に努め児童の情緒安定をはかりました。卒園後の支援やアフターケアは職場を退職した児童に連絡をとり、継続した支援を行いました。
4. 家族再統合について各関係機関と連携を深め家庭支援専門相談員を中心にカンファレンスを開きました。里親支援事業は、こどもたち意志を確認しながら里親支援専門相談員を中心に各センターと連携しながらとりくみ、養育里親に委託された児童2名は年2回姉弟交流を行い、また週末里親に2名の児童がつけました。里親の研修実習で2組のご夫婦を受け入れました。
5. 自治活動や各種行事を通して、こどもどうしの仲間づくり、職員との信頼関係づくりをはかりました。
6. 自立支援関係の委員会(生き立ち進路、性教育)では、生き立ち進路は小3～高3が各1回ずつ実施、性教育は幼児6回、学童は個別に実施しました。
7. 各フロアとグループ毎での夕食会を実施、「食育」を大切に考え、食材にふれながら調理方法や食事マナーを学ぶ機会としました。
8. 心理士はプレイセラピーの実施と学童フロアを巡回で現場に入りこどもと関わりながら、直接指導の職員と意見交換をしました。
9. 地域小規模グループホームでは地域の行事に積極的に参加し交流を深めました。2名のこどもが諸事情にて学園に戻りました。

### <地域福祉・福祉運動の拡充計画>

1. 高鷲保育園、阿保くすの木保育園と協力して、第53回「たかわしこどもまつり」を開催し、地域住民も含めて2,000人が参加しました。
2. 4人定員の「子育て短期支援事業」を6市2町1村と委託契約して実施しました。
3. 羽曳野市・富田林市の「要保護児童対策地域協議会」に参加して、各機関との情報交換や連絡調整をはかるとともに、児童虐待防止や要保護児童の対策に協力しました。

4. 校区福祉委員会、校区青少年健全育成推進協議会、小学校区、中学校区地域教育協議会、PTAに担当者を決めて参加し、その諸活動に職員を派遣し協力しました。また高鷲ホーム「うめのさと」は、職員が地域自治会の役員を担い、積極的に子ども会等に参加しました。羽曳野市、富田林市の要保護児童対策協議会には、管理者が出席し児童状況について意見交換を行ないました。
5. 広報紙「ほっとほーむ」は3回発行し、内容も充実しました。

#### <民主的管理運営計画>

1. 総主任を2名体制にし、施設運営を円滑化するとともに学校や行政との連携を強めました。また総務・経理等の職務分担をすすめ、事務処理を迅速にしました。
2. 職場の運営管理を円滑にするため管理者会議と企画会議を定例化しました。
3. 処遇憲章、事業計画及び報告、各種マニュアルを冊子化し職員周知を徹底しました。
4. 安全管理委員会を定例化し、火災、震災対策のマニュアル作成をすすめました。あわせて不審者対策や停電対策等のマニュアルの見直しをすすめました。
5. 虐待防止委員会を毎月開催し、その防止に努め職員研修や権セルフチェック、第三者評価結果等を踏まえ理解を深めました。

#### <人材育成・教育研修計画>

1. 財団綱領、児童養護指針を実践するため、児童養護施設の職員として専門性や力量を高める施設新任者研修や内外研修に積極的にとりくみました。
2. 職員会議で討議の時間を設け、支援課題の振り返りと対応策検討を行いました。

#### <財政基盤強化計画>

1. 高鷲ホーム「うめのさと」は安定的な運営に努めました。
2. 定員98名に対し、現員との乖離が大きく大幅な改善はできませんでした。しかし、一時保護児童は1年間に68名を受入れ、在籍延日数は2123日と積極的に受け入れました。
3. 電気、ガスの契約会社を変更するとともに、施設照明をLED化、節水装置の導入等で水道光熱費の削減に努めました。

#### <施設整備・事業の拡充計画>

1. 環境整備は、委託契約を結び美化整備に努めました。
2. 新規事業展開やこどもの生活環境向上のため、計画的に器具備品を購入しました。

#### <総合社会福祉研究所・「福祉のひろば」普及、発展のために>

1. 行政機関や学校等にも働きかけ拡大を積極的にとりくみ、園内での読み合わせ、羽曳野・松原ブロックで「読者のつどい」を共催で開催しました。

#### <財団後援会の発展のために>

1. 昨年度同様年度始めから計画に基づき、継続加入に働きかけ、会員拡大を計画的にすすめ目標達成に努めました。
2. こどもまつり、新年互例会で会員との交流を行い拡大、継続加入につなげました。
3. 広報紙「ほっとほーむ」を「てとて」とともに会員に送付し、施設のとりくみと後援会への理解を広めました。